



わたぼうし家族会だより



2015年 第4号

ふと立ち止まって考える機会となりました。

10月18日(土)、日中の暖かい陽射しが差し込む広々とした「ひまわりホール」で、今年最後の家族会を行いました。顔なじみのメンバーに新しくわたぼうしを利用され始めた方のご家族が参加してくださり、ご家族9名、担当職員3名、医師1名の13名で時間一杯語り合いました。今回はフリーテーマでしたので、参加者の方から話題をもらい、それに対して皆さんで意見交換する形でした。グループホームを退所され、在宅生活を始められた方、これから施設入所を予定している方、岡山から離れて生活しており、施設入所している親を心配されている方、単身生活をしている姉を世話していく中での不安を抱えている方と、これまでの介護生活を振り返り、昔より良くなったこともあれば、逆に今後の不安があるというように、日々悩みはつきないようです。皆さん自身、介護している認知症の方々と同じように歳を重ねているという現実から、介護生活に体力的な心配をもたれているようでした。施設入所やショートステイ先を検討されている方は、施設を利用したことのある方から、施設の特徴を教えてもらっていました。利用した方しか分からないことなど、参加者同士の繋がりがあってこそ知りえる情報だと感じました。認知症介護はきれいごとでは済まされないことも多々あります。身内であるからこそ理解してもらえないことや、「なんとかなるさ！」といったような前向きな考え方だけでは乗り越えていけないこともあります。お互いのいい感情も悪い感情も否定されることなく受け入れてもらえるのが、家族会のいい所だと感じます。



いろいろと気になるお薬のこと・・・



岡崎先生より、前回の家族会で質問として上がった認知症の薬物療法について改めてお話していただきました。物忘れなど、認知症の中心となる症状(以下、中核症状)に対しての薬物療法と妄想や興奮といった認知症と併せて出やすい症状(以下、周辺症状)に対しての薬物療法についてと薬を飲む意味について教えてくださいました。認知症の薬をいつまで飲んだらいいのか、薬を飲むことによる副作用の心配など、色々と気になることがあります。中核症状に対する薬は、認知症の進行、つまり脳細胞が死んでいくのを食い止めるほどの効果はないようですが、残っている機能を底上げしてくれているという点で飲んでおいたほうが良いようです。また周辺症状に対してのお薬は、飲むことによって介護拒否があった方が介護を受け入れてくれやすくなったり、妄想や暴力などがあった方が穏やかになったりすることがあり、当人も精神的に落ち着いた生活を送ることができますし、介護者にとっても介護負担が減ることがあります。薬に対してはさまざまな思いがあると思いますが、お薬を上手に活用することで、介護者も認知症の方も良い関係で快適な在宅生活を続けていくことができると思います。疑問等ありましたら、いつでもご相談くださいね。



***** 次回開催予定 *****

2016年1月16日(土) 12:30~14:30

詳細は後日ご案内いたします！